

第3章

化学物質による アレルギー性接触皮膚炎 についての理解を深めましょう



理・美容師の手あれのなかでも、
アレルギー性接触皮膚炎が
問題になります。
アレルギー性接触皮膚炎は、
どのようにおこるのか、
どんな物質がアレルギー性接触皮膚炎を
おこしやすいのか、
知っておくことで、予防に役立つはずです。

とくにアレルギー性接触皮膚炎に 気をつけなければならない 理由とは？

理・美容師の手あれで頻度が高いのは、刺激性接触皮膚炎ですが、理・美容師のお仕事をするうえで、とくに問題になるのは、アレルギー性接触皮膚炎のほうです。

手あれで悩んでいる理・美容師の多くが、アレルギー性接触皮膚炎を発症している可能性があるのです。



ある物質に対して、ひとたびアレルギーをおこすようになる(感作される)と、その体質を変えることは困難です。その物質(アレルゲン)との接触をくり返すたびに、皮膚炎をおこすようになります。

そして、アレルギー性接触皮膚炎は、

- 症状が激しくおこり、長引く
- アレルゲンに、ほんの少し接触しただけでも、皮膚炎をおこしてしまう
- アレルゲンに接触して、1～2日後に皮膚炎がおこるため、自分では原因物質に気づきにくい

などの特徴があり、発症すると対処がむずかしいのです。原因物質がわからないまま、手あれがこじれてしまい、仕事を休まざるを得ないというケースも少なくありません。ずっとお仕事の内容が変わっていなくても、突然発症することがあります。

現在、手あれがひどくない方も、皮膚炎の原因物質や発症のメカニズムについて理解しておき、予防に役立てましょう。

▼ 理・美容師のアレルギー性接触皮膚炎の例



赤くて細かいぶつぶつ、小水疱、じくじくが目立つ

出典:戸倉新樹ほか編,
皮膚科診療プラクティス20,
文光堂,286-289,2007



対策がむずかしい アレルギー性接触皮膚炎

昔に比べて製品の質がよくなったため、手があれなくなったという方も多いのではないのでしょうか。

刺激の強い製品を使用した場合、皮膚のバリアの状態によって個人差があるものの、誰にでも刺激性接触皮膚炎がおこり得ます。そのため、刺激が少なくなるよう製品の改良が進み、刺激性接触皮膚炎はおこりにくくなっているといえます。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

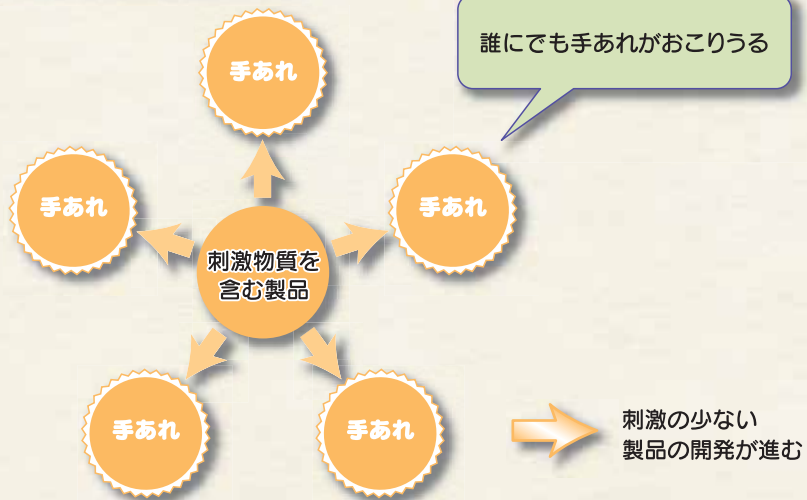
一方、アレルギー性接触皮膚炎は、含まれる成分にアレルギーがある人にしかおこりません。そして、アレルギーをひきおこす物質(アレルゲン)は、日常あまり知られていないものであることも多く、原因物質の特定がむずかしいのです。

そのため、理・美容師の手あれに限らず、アレルギー性接触皮膚炎は、刺激性接触皮膚炎に比べて、全般的に対策が遅れているといわざるを得ません。

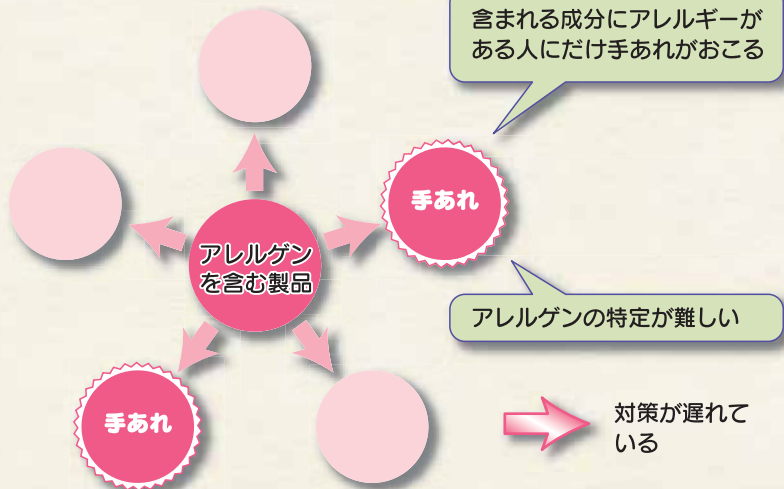
◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

そこで私たちは、理・美容師のアレルギー性接触皮膚炎の予防に役立てることを目標に、アレルギーをおこしやすい製品・成分を調査することにしました。

刺激性接触皮膚炎の場合



アレルギー性接触皮膚炎の場合



アレルギー性接触皮膚炎を 診断するには？ ～パッチテスト～

アレルギー性接触皮膚炎を診断するために必要な検査は、パッチテストです。血液検査などではわかりません。

パッチテストは、化学物質や薬剤などに対して、アレルギーがあるかどうか、背中や上腕に薬剤をつけたばんそうこうを2日間(48時間)貼って、陽性反応の有無をみる検査方法です。おもに皮膚科で行われる検査です。


パッチテスト



手あれの程度が重いほど、アレルギー性接触皮膚炎である可能性は高くなります。
下のチェック項目に該当する場合は、一度パッチテストを受けることをおすすめします。

◆◆ 当てはまる項目はありませんか？ ◆◆

- 手あれのために、お仕事に支障をきたしている。
- 突然、手あれがひどくなった。
- 赤くて細かいぶつぶつや、小水疱が目立つ。
- かゆみがひどい。
- 手首や腕にもかゆい発疹が出ている。
- 保湿剤やハンドクリームでは手あれがよくなる。
- 1～2日の休みでは手あれがよくなる。



1つでも当てはまる項目があれば、
皮膚科でパッチテストを！

MEMO

まだ手あれをおこしたことがないけれど、パッチテストを受けておいたほうがいい？

理・美容師のアレルギー性接触皮膚炎は、通常、製品との接触をくり返しているうちに発症します。手あれをおこしたことがなければ、現時点で製品に対するアレルギーがあると診断される可能性は低いでしょう。今後発症しないように、予防が大切です(第6章参照)。これから理・美容師のお仕事をはじめの方で、専門学校で手あれを経験している場合は、使用予定の製品でパッチテストを受けておいたほうがよいでしょう。皮膚科でご相談ください。また、アトピー体質がある場合は、手あれを発症しやすく、注意が必要であるため、現在・過去を問わずアトピーがある、アトピーの可能性がある、という方も、皮膚科で相談することをおすすめします。

アレルギー性接触皮膚炎の原因

～もっとも重要なのは、染毛剤～

アレルギー性接触皮膚炎の原因物質は、自分では特定できないことが少なくありません。

パッチテストは、アレルギー性接触皮膚炎の原因物質を明らかにするためにも欠かせない検査です。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

手があれたことがある理・美容師の方々に、普段使用している製品でのパッチテストを受けていただきました。

その結果、もっとも陽性率が高かったのは、永久染毛剤である酸化染毛剤(第1剤)でした。



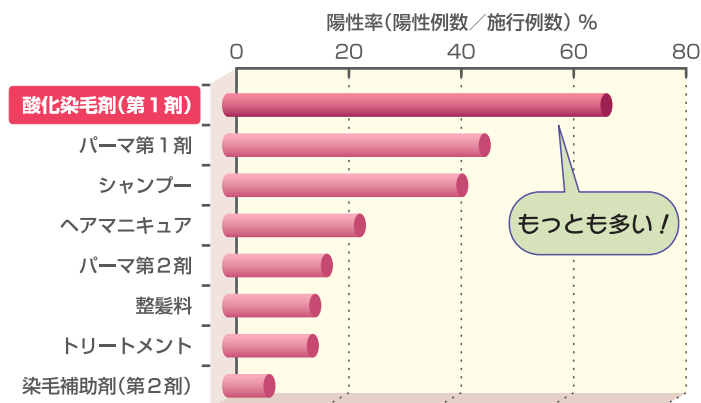
刺激性接触皮膚炎なども含めた、手あれ全体で見ると、その原因は、シャンプー、パーマ液、染毛剤の順に多いですが(40ページ参照)、アレルギー性接触皮膚炎の原因としては、染毛剤がもっとも重要です。

お客さんの染毛の際に、パッチテストがすすめられているのは、酸化染毛剤が非常にアレルギーをおこしやすい物質を含んでいることを意味します。

注意!

染毛剤にアレルギーがあると、手の皮膚炎だけでなく、ご自身の髪を染毛した場合にも、頭皮にかぶれがおこります。酸化染毛剤によるアレルギー性接触皮膚炎は、症状が強く、頭皮だけでなく首や顔にも拡大することがあります。酸化染毛剤にアレルギーがある方は、ご自身への使用を避け、代わりにヘアマニキュアなどを用いるようにしてください。

* 手あれの経験がある理・美容師のパッチテスト陽性率



宮城県の理・美容師63名のパッチテストの結果より

MEMO アレルギー性接触皮膚炎の原因は、1つとは限らない?

今回の調査で、アレルギー性接触皮膚炎と診断された理・美容師の約4分の3が、パッチテストで複数の物質に陽性を示しました。もっともアレルギーをおこしやすい物質のひとつであるジアミン(次ページ参照)のほか、理・美容師の場合、一般的にはアレルギーをおこす頻度がそれほど高くない物質に対しても、アレルギーを持ってしまうことが多いのです。これは、皮膚のバリア機能がこわれていて、非常にいろいろな物質が侵入しやすい状態になっているためであり、感作される機会が多いことを意味します。手があればじめたときには、いろいろな物質に接触することを避け、早めにケアしたいものです。

もっとも注意しなければ ならないアレルギーは、 染毛剤のジアミン

どのような成分が、アレルギーをおこしやすいのでしょうか。ある物質に対して、アレルギーをおこす状態になることを、感作とよびますが、感作をおこしやすい物質の代表に、酸化染毛剤(第1剤)に含まれるジアミン類があげられます。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
このジアミン類のなかでも、「パラフェニレンジアミン」が、もっとも重要なアレルギーです。



国内外で報告されている理・美容師のアレルゲンを用いて、パッチテストを実施した結果、パラフェニレンジアミンの陽性率が圧倒的に高く、75%に達しました。

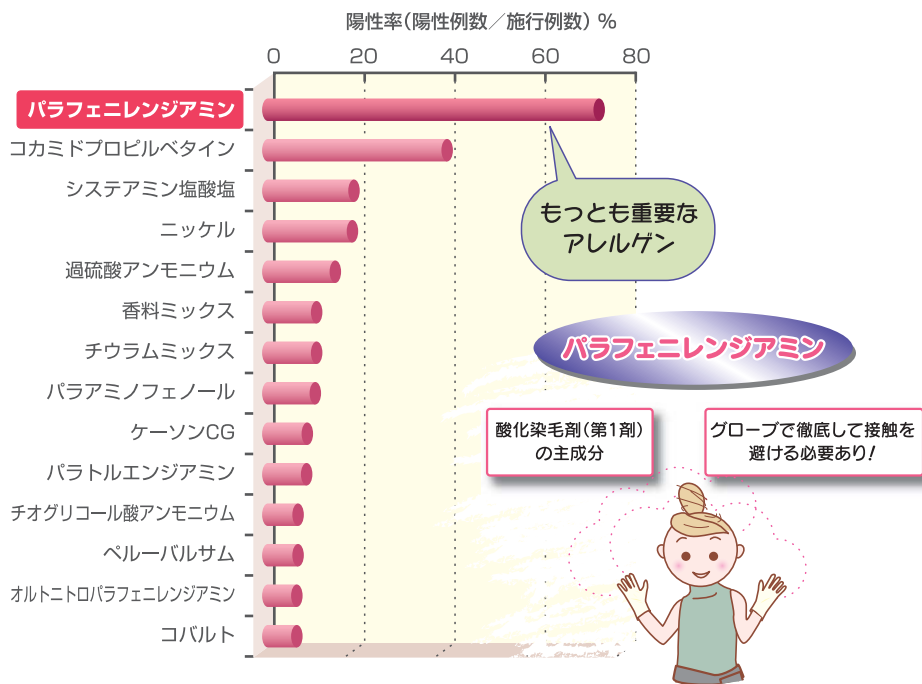
とくに、皮膚炎が重症のグループでは、陽性率は9割を超えますので、手あれが治りづらくて悩んでいる理・美容師の大多数は、このアレルゲンによる皮膚炎であると考えられます。

しかし、この物質を含む酸化染毛剤は、染毛力が優れているためニーズが高く、今のところ使用を避けるのはむずかしいでしょう。より安全な染毛剤が開発されるまでは、グローブなどで徹底して接触を避けるようにするしかありません。

注意!

植物性染毛剤のヘナに、黒っぽい色を出す目的でジアミンが混入されていることがあります。使用する場合は気をつけてください。

* 理・美容関連の各種アレルゲンのパッチテスト陽性率



宮城県の理・美容師63名のパッチテストの結果より

* 各種アレルゲンの説明については、55ページをご参照ください。

パッチテストを おこなう場合の流れ

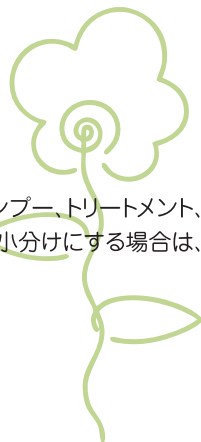
パッチテストには、5日程度を要し、その間何度か皮膚科に通院する必要があります。また、正しく判定するために、いくつかの注意事項を守らなければなりません。

パッチテストを受けたいという方のために、東北労災病院皮膚科で行っているパッチテストの一般的な方法について説明します。



ご持参いただくもの

お仕事でよく使う製品や手あれの原因と思われるもの(シャンプー、トリートメント、パーマ液、染毛剤、整髪料、グローブなど)をご持参ください。小分けにする場合は、それぞれ製品名、メーカーがわかるようにしてください。



パッチテストの日程

第1日目：ばんそうこうを貼る日

ご持参いただいた製品を、パッチテストに適した濃度に調整し、微量を専用のばんそうこうにのせます(準備に30分～1時間程度かかります)。背中や上腕の正常な皮膚に、ばんそうこうを貼ります(製品を皮膚に塗って乾燥させるという方法をとることもあります)。20～30分経過をみて、即時型の反応(じんましん)がおこらないか観察します。

第2日目

ばんそうこうを貼ったまま、下記の注意事項を守って生活します。

第3日目：第1回判定日

ばんそうこうをはがして、ペンでマークをつけ、30分～1時間後に判定します。記録のため、判定部位の写真を撮ります。

第4もしくは5日目：第2回判定日

2回目で、より正しく判定することができます。

注意していただくこと

1. ばんそうこうを貼っている間は入浴できません。また、汗をかくようなこともできません。
2. 第2回の判定が終わるまでは、ばんそうこうを貼ったところのマークが消えないようにしてください(薄くなったら、油性ペンでマークしてください)。
3. ばんそうこうの上から、かいたりたたいたりしないでください。かゆみがひどいときは、アイスノンなどで冷やすと楽です。
4. ひどいかゆみを生じたときや、何かトラブルを生じたときは、病院に連絡してください。テストを中止する場合や、来院していただく場合があります。
5. 肌着は綿100%のものを着用してください。
6. テスト中は、運動をしたり子供さんを抱いたり、大きな荷物を抱えたりしないでください。
7. アルコール、刺激物は避けてください。
8. 薬を内服している方はお申し出ください。

- ・皮膚炎が重症の場合などは、テストが延期になることがあります。
- ・パッチテストの陽性反応は、ときに水疱やびらんなど非常に強く出ることがあります。このような場合は軟膏などで適切に対応します。
- ・テスト部位に、色素沈着が残ることがありますが、徐々に薄くなります。

パッチテスト用
ばんそうこう



理・美容師向けの パッチテスト用 アレルゲンについて

東北労災病院では、今回の調査のために、理・美容師向けのパッチテスト用アレルゲンを用意しました。国内外でアレルギーをおこしやすい成分として報告されているものです。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
普段使用している製品のパッチテストと組み合わせることで、手あれの原因の特定がより容易になるでしょう。



これらのパッチテスト用アレルゲンのほとんどは、現在のところ日本では販売されていないため、海外から購入したり、私たちが作製したりしたものです。
 パッチテストの調査期間は終了したため、被験者の募集は、現在行っておりませんが、受診された患者さまを対象として行っております。
 このアレルゲンでパッチテストを受けたいという方は、一度、東北労災病院の皮膚科を受診して、日程等につき医師にご相談ください。



*** 理・美容師向けパッチテスト用アレルゲン(東北労災病院)**

成分名(アレルゲン)	説明
パラフェニレンジアミン	染毛剤の成分
バラトルエンジアミン	染毛剤の成分
メタアミノフェノール	染毛剤の成分
バラアミノフェノール	染毛剤の成分
レゾルシン	染毛剤の成分
オルトニトロパラフェニレンジアミン	染毛剤の成分
過硫酸アンモニウム	ブリーチの酸化促進剤
コカミドプロピルベタイン	シャンプーなどの界面活性剤
チオグリコール酸アンモニウム	パーマ液の還元剤
システアミン塩酸塩	カーリング剤の還元剤
香料ミックス	香料のアレルゲン8種のミックス
ペルーバルサム	香料のアレルゲンを含む物質
ケーソンCG	防腐剤
ニッケル	金属
コバルト	金属
チウラムミックス	ゴムのアレルゲン5種のミックス

* 必要に応じて、ほかのアレルゲンも追加することがあります。

理容師と美容師 皮膚炎の手あれのちがい

理容師と美容師では、手あれの原因にどのような違いがあるでしょうか。刺激性接触皮膚炎なども含めた、手あれ全体でみると(右上の図)、美容師は、理容師に比べて、パーマ液や染毛剤を使用することが多いため、これらの製品で手あれをおこす頻度は高くなるでしょう。

アレルギー性接触皮膚炎だけで見るとどうでしょうか(右下の図)。染毛剤は、理容師、美容師ともにパッチテスト陽性率が高く、両者で重要な原因です。

そして、理容師では、整髪料の陽性率が高いのが目立ちます。シェービング剤などでアレルギー性接触皮膚炎をおこす可能性もあります。理容師の方で、アレルギー性接触皮膚炎が疑われる場合、これらの製品でもパッチテストを受けてください。

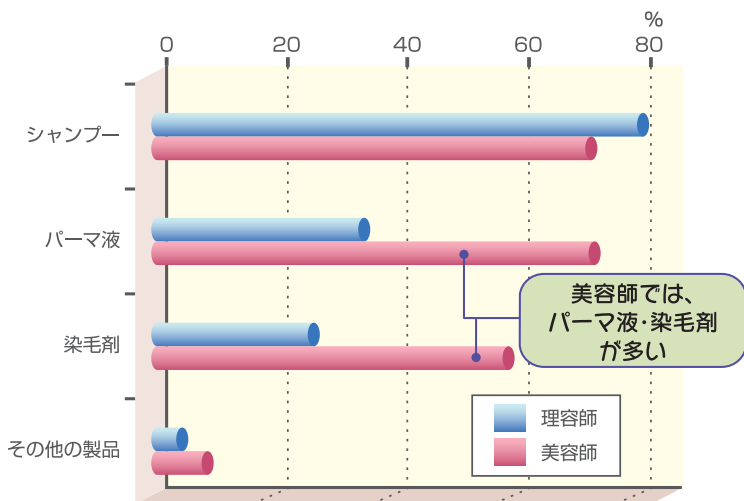


MEMO

**パッチテストのためになかなか時間をとれないので、
近所の病院でテストを受けることは可能？**

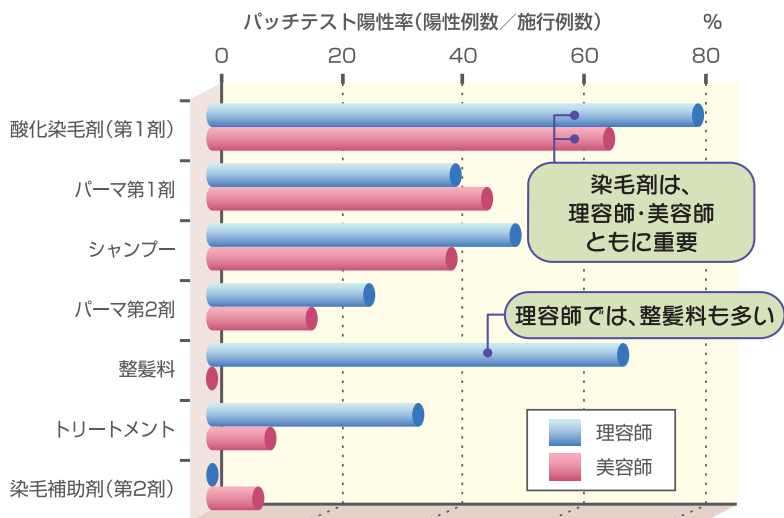
日本では、パッチテスト用アレルゲンの多くが、薬事法によって販売禁止になっています。そのため、アレルギー性接触皮膚炎の診断に不可欠なアレルゲンの入手がむずかしい状況であり、現在のところ、前ページでご紹介したようなアレルゲンでは、テストを受けられない病院がほとんどです。そこで、まずは普段使用している製品でパッチテストすることになりますが、専用のばんそうこうや物品が必要であること、準備に時間がかかることなどから、対応していない病院もあります。このような場合は、パッチテストを受けられる病院を紹介してもらうことになるでしょう。

* 手あれの原因 ～皮膚炎のタイプを問わず～



宮城県の理・美容師のアンケート調査より(n=647)

* 手あれの原因 ～アレルギー性接触皮膚炎の場合～



宮城県の理・美容師63名のパッチテストの結果より

パッチテストに関するご感想・ご意見

今回の調査で、アンケートやパッチテストにご協力いただいた理・美容師のご感想・ご意見を一部ご紹介します。

アレルギー性接触皮膚炎の場合、原因物質を特定して、それを避けるための対策をとることが必須です。パッチテストは、原因物質の特定に欠かせないものですが、受けたことがある方は、とても少ないのです。

パッチテストは、背中一面にばんそうこうを貼ったり、入浴が制限されたり、かゆみを生じたり、判定のために何度も通院したり…と受ける方にとって大変な部分もありますが、手あれ対策の第一歩です。手あれに悩んでいる方は、ぜひパッチテストを受けてください。



* パッチテストに関する理・美容師のご感想・ご意見

パッチテストで、皮膚にやさしいといわれていた製品に陽性反応が出て意外であった。調べてみると自分の手あれの原因がわからなかった。

(美容師・女性)

背中一面に貼ったばんそうこうでかゆみが出て、我慢するのが大変であった。(美容師・女性)

地方に住んでいるので、パッチテストを受けに行くのがむずかしい。パッチテストを受けられる施設がたくさんあるとよい。

(理容師・女性)

機会があればパッチテストを受けたいが、仕事をなかなか休めない。(美容師・女性)

(美容師・女性)

パッチテストで陽性に出た製品をほかのものに変更したら、手あれが完治した。

(美容師・女性)

パッチテストは、思っていたより大変な検査であった。

(美容師・男性)

パッチテストで陽性に出たシャンプーを薄めて使用したり、染毛剤に触れないように気をつけていたところ、以前より手あれが楽になった。(美容師・男性)

ばんそうこうを貼っている間、入浴できないのが困る。

(理容師・男性)

知り合いの美容師にもパッチテストをすすめたい。(美容師・女性)

宮城県の理・美容師の声より